

櫛田川本川の中～上流部では、^{むろうあかめあおやま}室生赤目青山国定公園及び^{かはだきょう}香肌峡県立自然公園に指定されており、優れた自然環境が数多く残されている。

このようなことから、流域内には多くの文化財が存在し、このうち史跡、名勝、天然記念物は10件（内、国指定4件、県指定6件）が存在する（平成14年現在）。

番号	名 称	指定区分	指定年月日	所在地
①	不動院ムカデラン群落	天然記念物（国）	1927.4.8	松阪市大石町
②	水池土器製作遺跡	史跡（国）	1977.7.25	明和町明 星
③	斎宮跡	史跡（国）	1979.3.27	明和町斎宮・竹川
④	斎宮のハナショウブ群落	天然記念物（国）	1936.12.16	明和町斎宮
⑤	坂倉遺跡	史跡（県）	1975.3.27	多気町東池上
⑥	法泉寺庭園	名勝（県）	1937.11.12	多気町相可
⑦	西村広休宅跡のフウ樹	天然記念物（県）	1937.11.18	多気町相可
⑧	粥見井尻遺跡	史跡（県）	2000.6.19	飯南町粥見
⑨	水屋の大クス	天然記念物（県）	1967.2.10	飯高町赤桶宮東
⑩	蓮のムシトリスミレ群落	天然記念物（県）	1993.3.8	飯高町大字蓮

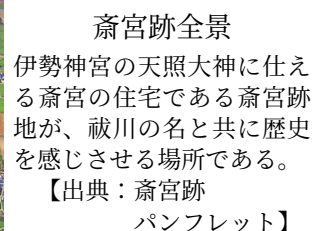




図2-2 橿田川流域の主な史跡・名勝・天然記念物

櫛田川流域の景観特性としては、上流部は、ブナやトガサワラの深い原生林の中に地形的特性を反映した数多くの滝や奇石が分布し、溪谷としての風景が特徴的である。^{はちす}蓮川上流一帯は^{おくかはだきよう}奥香肌峡の^{はちす}蓮溪谷と呼ばれ、^{みや たに}宮の谷、^{えま}江馬小屋谷、^{せんごくたいら}千石平、^{おく たいら}奥の平等の谷に別れ、多くの滝と急峻な崖が見事な景観を呈している。

中流部は、大小の屈曲を繰り返して河岸段丘の谷間を流れ、至る所で岩盤が露出するとともに砂州や瀬、淵が連続し、^{つづらくま}九十九曲の流れ、^{えびすがわら}恵比寿河原、^{おいし}大石といった景勝地を構成しており、これらは合わせて^{かはだきよう}香肌峡とよばれている。

下流部は^{いせ}伊勢平野の南端を流れ、沿川に広がる田園風景が櫛田川の景観を特徴付けている。また、頭首工による広い湛水面が連続的に存在し、ケヤキ、スギ、タケ等からなる樹林帯が発達していることから、広い水面と樹林帯の風景が特徴的となっている。

松阪港に隣接する河口部においては干潟が発達しており、春の潮干狩り、夏の海水浴、冬のノリそだは櫛田川河口の風物詩となっている。



江間小屋谷

蓮川上流に位置し、宮の谷溪谷と並んで美しい自然美を満喫できるハイキングコースが設置されている。

【出典：飯高の山ガイドマップ】



ノリそだ

伊勢湾ではノリの養殖が盛んであり、櫛田川河口でもノリそだのたつ光景が見られる。【出典：松阪市勢要覧】



潮干狩り

河口部の干潟では、春になると大勢の人々が訪れ、潮干狩りをする光景が見られる。

2-3 河川にまつわる歴史・文化

櫛田川は多雨地帯を流れる河川であり古来より幾多の大洪水に見舞われている。このため、櫛田川下流部沖積平野の河道は一定しなかったようである。この地域に人が住み始めたのは古墳の遺跡等より無土器文化末期の約1万年くらい前からではないかと推測されている。

櫛田川の名の由来は、皇女「倭姫命」が第11代垂仁天皇の命を受け、皇祖神「天照大神」の鎮座地を求めて諸国を巡行されていたとき、命が「竹田の国」と呼んでいた地で頭に飾していた櫛を落とされたので、その地に櫛田神社を定め、櫛田という地名もそこから起こったとされる。また、曲がっていることをクシ、クネと呼ぶことから名付けられたとも言われている。

河道変遷の記録に残るものとしては、旧河道は現在の祓川が本流であったとされるが平安時代以降、本支流逆転が起こり現在の河道が形成されたとある。河道変遷については諸説あるが、永保2年(1082年)の地震や大洪水により、現在の櫛田可動堰付近より下流にあった水田や村落を押し流し現在の櫛田川が本川、祓川が派川となる河道が出来たと伝えられている。このため、神山麓の居住は困難となり川を渡って現在の法田地区に転住するに至った。

しかし、この部落も幾多の洪水により田畑が流出したため、水が何とかして去ってほしいとの念願から「水を去る田」の意味において法田町の名称をつけたとの説もある(法の字は「三水に去る」)。このように幾多の水害を受けたにも関わらず、この下流部平野一帯は美田が多いため沿岸住民の定着心は強く、住居の地上げ、輪中堤等により洪水防御を行ってきた。

流路が固定されたのは昭和初期であり、本格的に改修されるようになったのは昭和34年の伊勢湾台風以降である。

櫛田川は、奈良時代初期に採掘された丹生水銀や木材の水運・舟運などさまざまな利用が古来より行われ、両郡橋付近では松阪商人の発祥の地である射和商人の古い街並みが残り、櫛田川の清流と調和した独特の風情をかもしだしている。

櫛田川の歴史をしのばせるものとしては、祓川沿川の国指定史跡である斎宮跡、神山



河道変遷図

伊勢国大絵図(安永8年(1779))

【出典：松阪地図集成】



神山から祓川、櫛田川を望む

(昭和28年頃)【提供：大西春海氏】

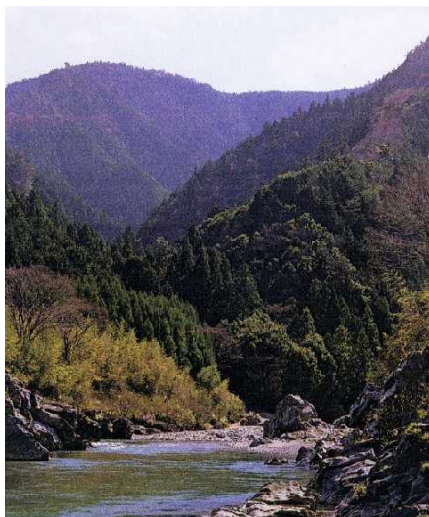
神宮の遷宮、文政6年（1823年）に築造された立梅用水、舟戸、津留、相可の渡し跡等があり、また、文化に関するものとしては、お庄ヶ淵、礫石、灯明岩等にまつわる伝説、あるいは清流太鼓が有名な香肌祭り等が挙げられる。

[特徴的な河川景観]

(1) 香肌峡

大台山系を源とする櫛田川の上流域一帯は、昔から茶、椎茸、山菜等香り高い物がとれることから香肌峡の名で親しまれ、現在は香肌峡県立自然公園に指定されている。国道166号に沿って約40km、急流・深淵の繰り返す渓谷美が続き、新緑・紅葉のほか、シヤクナゲ、サクラ、ツツジ等が岩肌を染め季節ごとに水面の色を変え、豊かな自然環境に彩りを添えている。

また、アユ釣りのポイントとしても知られ、「香魚」とも呼ばれる鮎のなめらかな肌は、香肌峡の名のもう一つの由来と言われている。



香肌峡県立自然公園

櫛田川の中上流一帯は、昔から香りの高い物がとれることから香肌峡の名で親しまれ、昭和28年に県立自然公園に登録された。

【出典：蓮ダムパンフレット】

(2) 大石不動院とムカデラン

大石不動院の境内から櫛田川の清流を望み、不動の滝がかかる景勝の地である。

ほうろく岩と呼ばれる巨岩に群生するムカデランは、国指定の天然記念物に指定されている。



ムカデラン

ムカデランは一属一種であり、日本特有の着生蘭である。8月頃より小さなピンクがかった花をつけ、実は卵円形で微細である。

【櫛田川にまつわる歴史・文化】

(1) 丹生水銀

日本最古の水銀採掘地である。このことは平安時代の逸話を集めた「今昔物語」第十七巻に水銀採掘悲話として「伊勢国飯高郡の水銀抗夫の話」が出ていることからわかる。発見されたのは奈良時代初期で、当時は日本産水銀のほとんどがここで採掘され、すべて朝廷に献上されていた。

古代、中世には金属の渡金用、絵具の顔料、梅毒の薬として大重宝された水銀は、国内流通だけでなく、貿易品として朝鮮、中国にも触手を伸ばした。

丹生水銀によって、流域筋の道路、舟運、商工業、文化が開けていったが、江戸時代に鉱脈が絶えて、今日では遺跡遺物となっている。



丹生の水銀鉱山跡

丹生の水銀は奈良時代に発見された日本最古の水銀であり、射和軽粉の原料に利用された。

(2) 射和商人の街並み

「伊勢の射和は富山さま、四方白壁やつむねづくり、前は切石切戸の御門、裏はおおかわぶね大川船が着く」これは、江戸店持ち豪商富山家の豪勢を歌った童歌である。江戸時代、射和にはこうした豪商が、竹川竹斎（幕末に豪商竹川家に生まれ、射和文庫を創設するなど地域に貢献した）の言葉を借りると40軒もあったという。

伊勢本街道の宿場町相可と松阪商人発祥の地射和、中万を結ぶ両郡橋付近は、往時の繁栄の名残を今に残す射和商人の古い街並みと櫛田川の清流が調和した独特の風情をかもしだしている。



射和商人の町並み

射和は室町時代より丹生の水銀を使った軽粉製造で莫大な富を得た。かつての射和の繁栄は、櫛田川の水運によるところも大きいと言える。

【出典：蓮ダムパンフレット】

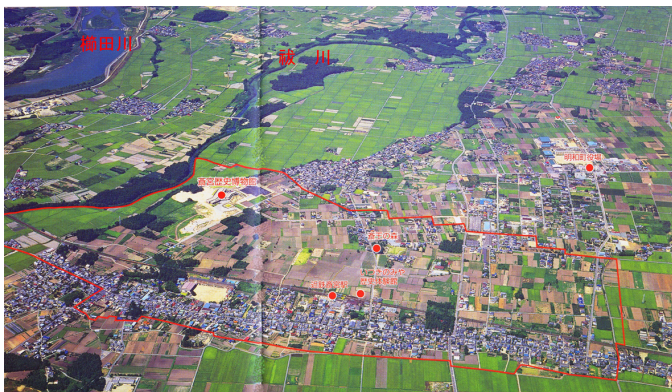
(3) 斎宮跡

戒川中流部右岸に接している国指定の史跡である斎宮跡は、飛鳥時代（670年）から南北朝の争乱（1330年頃）で廃絶するまで続いたとされる斎王制度の宮殿と役所のあった場所である。斎王とは天皇の即位毎に未婚の皇族女性の中から卜定（占い）によって選

ばれ、天皇に代わり伊勢神宮に仕え、660年の間に60人をこえる斎王が任命された。祓川の名前も斎王がこの川でお祓いをしたことに由来するとされている。

斎宮は永い歴史を持ちながら南北朝の争乱で廃絶したため、「幻の宮」とされてきたが、昭和45年に宅地造成にかかわる発掘調査が行われ、奈良時代の掘立柱建物群、大溝等の遺構と共に一般の住居跡から出土しない大型飾土馬等の土器が出土し、これらが明和町の斎宮であることを裏付けることになった。

昭和48年から3ヶ年にわたり宮域範囲確認調査が行われ、その範囲は東西2.0km、南北0.7km、137haの広大な面積を占めることが明らかになり、我が国の歴史、文化を解明する上で重要な文化遺産として、昭和54年3月27日国の史跡に指定され、現在も発掘調査が続けられている。



朱彩大型土馬

祭に用いられたと考えられる素焼きの馬

【出典：斎宮跡パンフレット】

斎宮跡全景

伊勢神宮の天照大神に仕える斎宮の宮殿と役所である斎宮跡地が、祓川に接しており、祓川の名と共に歴史を感じさせる場所である。

【出典：斎宮跡パンフレット】

(4) 斎王祭り

全国に類例のない、貴重な文化遺産である国史跡「斎宮跡」の啓発に努めながら、有効な保存と活用を図り、地域の発展に寄与することを目的として、毎年6月上旬に開催される祭りである。斎王、女官、皇女など総勢約150人による「斎王群行」をはじめ、雅楽、舞楽などの各種イベントが催される。



斎王祭り

メイン行事の斎王群行は、一般の人々から参加者を募り、斎王、女官、童女など総勢約150人によって、平安時代をしのび、盛大に行われる。

【出典：明和町勢要覧】

(5) 神山神社

橿田可動堰左岸にそびえる標高131mの神山の東側山麓に、伊勢神宮より古い歴史を持つ神山神社がある。神山神社では、20年に1度遷宮がとり行われ、境内に新しい白石が敷き詰められる。この石英の白石は、橿田川の河原で氏子たちによって拾い集められ、俵に詰められた後、神社まで運ばれる。この伝統は長い歴史の中で脈々と受け継がれている。

しかし、現在では適当な白石が見つからず、古くなった白石を洗って使用している。



神山神社

神山の東麓に位置し、伊勢神宮より古い歴史を持つといわれる神社である。

(6) 神服織機殿神社・神麻統機殿神社

両神社の起源は、天照大神のために荒妙(麻)、和妙(絹)を織って神の衣とされたという縁起に基づく神社である。神麻統機織神社では荒妙(麻)、神服織機殿神社では和妙(絹)が奉織され、毎年5月と10月に伊勢神宮で行われる神御衣祭に奉られている。



神麻統機殿神社

橿田川の右岸沿川に位置し、神御衣祭に奉られる神御衣が奉織されている神社である。

(7) 立梅用水

寛政の改革から文化文政時代へと、農民から年貢をしばりとする重農政策が続いた。当時の丹生村では、谷間の狭い土地は谷水で米を作ったが、平野部は荒地畑ばかりで農民の暮らしはますます疲弊していった。

新田開発こそ農民救う道として西村彦左衛門地土と長谷川庄屋らは、用水築造運動を起こした。橿田川の水を引き入れる場所として粥見村立梅(今の飯南町)に井堰を造って水を取り、途中の村々へと水を分配し水田を潤すものだった。

文政6年3月に、「立梅井堰」は完成し、立梅井堰—庄鍋村(現飯南町)—波多瀬村—片野村—朝柄村—古江村—丹生村の総延長約32kmの水溝に、さらに約156ha(勢和村旧五か村合計)の



立梅用水取水堰

江戸時代後期に新田開拓のためにつくられた用水であり、現在は発電用水としても利用されている。

新田に結実した。

大正8年には豪雨による櫛田川の大洪水により立梅井堰は崩壊したが、井堰再築工事に着手、コンクリート張石工法で大正10年現在の立梅井堰が完成した。

(8) 櫛田川の渡し

橋のない時代の櫛田川渡河で一番多かったのは、渡し舟である。飯南郡飯南町、多気郡勢和村、多気町、松阪市を流れる櫛田川にはいくつか渡しがあった。特に、大和の初瀬から伊勢神宮に通じる伊勢本街道と、松阪から熊野三山などへの熊野街道が交差する、古代からの交通の要衝地、多気町相可周辺の櫛田川には近代に至るまで多くの渡し場があった。いずれも底の平たいダンベイ舟と呼ばれる川舟を、ねじり鉢巻きの船頭が竹竿で漕いで人馬を渡したのである。

○舟戸の渡し

熊野街道の道筋に当たり、舟戸から櫛田川の渡しを越えて桜峠へ、そこから勢和村を抜けて度会郡玉城町田丸、さらに伊勢神宮、熊野三山につながる。明治に県管理の渡しとして始まり、渡し賃は無料。大正4年に橋が架けられたが、板を渡しただけの簡易橋であったため、橋が出来てからも何年間かは渡しが併存していた。この渡船手法は船頭が棒を使って渡す「棹ごし」である。



舟戸の渡し場跡（桜橋手前の岩場）
熊野街道筋にあたる渡し場跡で、大正時代まで利用されていた。

○津留の渡し

伊勢本街道の道筋に当たり、松阪市茅原と、津留の間を渡し、勢和村へも通じる。昭和4年に、今の津留橋が出来るまで存在した。渡し場の管理は津留の人が行い、津留の人は無料、茅原の人は有料。渡舟手法は川幅に張った鉄線を手でたぐりながら舟を進める「綱ごし」「横渡し」である。渡し場にある川中の石は「はかり岩」といわれ、川の水量を測る目安とされた。昔は岩の上に切石が乗っていたが、伊勢湾台風で流された。



津留の渡し場跡（はかり岩）
伊勢本街道筋にある渡し場跡で、昭和4年まで利用されていた。

○兄国^{えくに}の渡し

松阪市中万町と兄国との間の渡し。昭和32年まで。この渡しは個人が経営しており有料。人の他、自転車も渡した。渡しは「綱ごし」。平常より水位が3m上ると川止めになった。



兄国の渡し

昭和32年まで、中万と兄国の間を結ぶ渡しとして利用されていた。

【提供：大西春海氏】

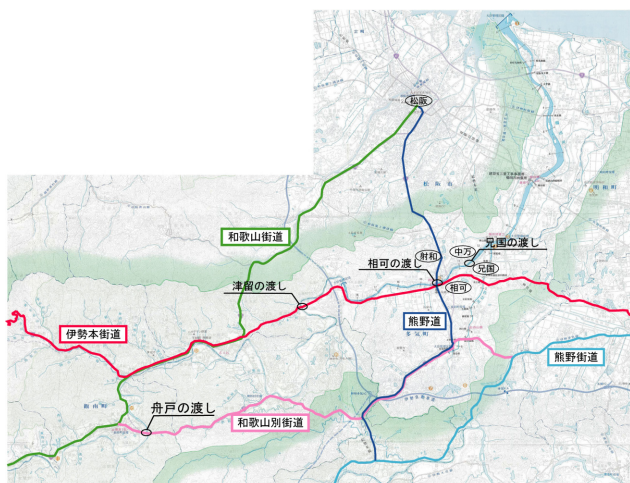
○相可^{さか}の渡し

松阪市射和と、相可の間の渡し。明治18年に前の両郡橋が出来るまでであった。渡船手法は船頭が棒を使って渡す「棹ごし」である。



相可の渡し場跡

両郡橋が出来るまで射和と相可の間を結ぶ渡しとして利用された。



主な渡しの位置図

伊勢本街道をはじめ、様々な街道が交差しており、川を渡るための渡しが所々に設けられていた。

(9) 香肌^{かまだ}まつり

昭和50年から毎年8月に開催されている祭りで、伝統の盆踊りや青空市、清流太鼓^{せいらうたいこ}の演技等、飯高町の夏の風物詩として定着しており、年々参加者も増加している。



香肌まつり

飯高町役場前において、毎年8月に開催されており、夏の風物詩として定着している。【出典：飯高町勢要覧】

【櫛田川にまつわる伝統】

(1) お庄ヶ淵

場所：飯高町宇藤木

お庄という名の若妻が、遠く出稼ぎにいった夫を想い放心状態のまま、川の淵で洗濯をしていて足を滑らせ、溺死してしまう。竜神様のおぼし召しによりお庄は、この淵のヌク湯で我が子の病気を治し、浮世の縁を切った。死後も子供を想う母性愛を語り継いでいる。

この話を伝え聞いた多くの病人が、この淵へ足を運び入浴し、病気を全快させたといわれている。



お庄ヶ淵

飯高町宇藤木の櫛田川にある大淵で、炭酸塩泉が今でもわき出しており、お庄ヶ淵の伝説が生まれた。

(2) 礫石

場所：飯高町赤池地先の櫛田川の真ん中

「勢陽五鈴遺響」に出ている「国分け伝説」である。

大昔、天照大神と天児屋根命が両国の国境を決めるとき、天照大神が巨石を川中に投げ入れて国境を決めたという有名な伝説である。

この大石は礫石と呼ばれ、今も高さ3m幅5mもある巨石が、緑がかった清流の中に神秘的な姿を宿し、国分け伝説を永遠に伝えている。



礫石

国分伝説にちなむいわれをもつ岩であり、高さ3m幅5mもある巨岩が清流にたたずんだ姿を見せている。

(3) 灯明岩

場所：松阪市射和町、中万町と多気町相可、^{あらまき}荒時の境を流れる橿田川の真ん中

射和町の古刹、^{ねんしょうじ}蓮生寺の縁起にまつわる、今から五百年ほど前の、由緒正しい伝説である。

その奇怪な現象は天台宗^{しんぜい}真盛上人が、^{ほんにやぜんじ}般若禪寺（今の蓮生寺）で遷仏の供養会として念仏説法を始めた折に起こった。寺の辺りに暴風雨が起り、橿田川に注ぐ乳熊川の淵辺りから^{りゅうとう}竜燈が舞い上がった。その形跡が、橿田川の真ん中にある大岩の所まで続いていたため、この岩にすむ竜神が説法を聞きにきたのだと、里人たちは感激した。それ以来この岩を灯明岩あるいは、竜燈岩と名付け崇拝し、今も高さ3m幅8mもある巨岩が神秘的な姿を宿している。



灯明岩

地域の人々の「川の神」信仰の一つとなっている巨岩である。

(4) ほうろく岩

場所：松阪市大石地区、大石不動院近く

大石不動院近くにある空地に「馬頭観世音」と刻まれた石塔がある。その上の山の断崖を仰ぎ見ると、今にも落ちてきそうな感じの細長い石がぶら下がっている。これが「ほうろく岩」である。

明治時代の昔、この石の下をホーロク売りが通ったが、石が落ちてきたら「ホーロクが割られてしまう」と、急に走り出した。そのため、売り物のホーロクをみんな割ってしまった。それで「ほうろく岩」という名がついたといわれる。別名「観音岩」ともいう。



ほうろく岩

松阪市大石付近は、奇岩の宝庫であり、この「ほうろく岩」の他にも「浮岩」「子持岩」「猫岩」等の名前の付いた奇岩が点在している。

2-4 市民活動

櫛田川流域の河川に関連した活動としては、^{はらい}祓川環境美化推進協議会が「清浄なるみそぎの川として歴史とともに流れてきた祓川をみんなで美しくすることに努め、この活動を通じてお互いの連帯感を高め、地域全体の生活環境を美化し住み良い地域を作ること」を目的に、工場排水調査、現況調査、生物調査、清掃活動等の活動を行っている。

2-5 自然公園等の指定状況

櫛田川本川中流域は、大半が県立自然公園に指定され、アユ釣り、キャンプ等に多くの人が訪れる。また、沿川には、まとまった集落があり、地域の人々から親しまれており、自治体でも親水性に配慮したレクリエーション施設の整備を進めている。櫛田川上流域は、ほぼ全域が県立自然公園・国定公園に指定されており、美しい渓谷・溪流が存在する。

また、流域内では8ヶ所が鳥獣保護区に指定されている。

表2-3 櫛田川流域自然公園等の指定状況

公園名	指定年月日	関係市町村	主な観光資源	公園面積
室生赤目青山 国定公園	S45.12.28	名張市、久居市、美里村、 白山町、美杉村、飯高町、 伊賀町、大山田村、青山町	山岳景観、香落溪、 赤目四十八滝、奥香 肌峡、北畠神社、 奥山愛宕神社	13,564ha
香肌峡県立 自然公園	S28.10.1	松阪市、飯南町、飯高町、 勢和村	櫛田川上流渓谷、山 岳景観、和歌山街道	24,764ha

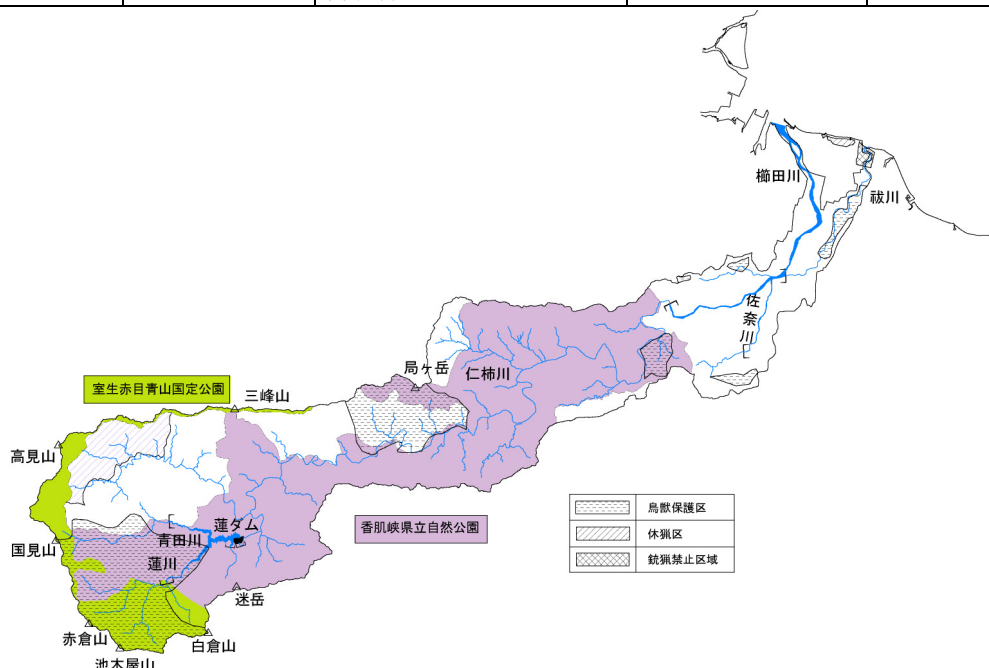


図2-3 流域内国定公園・県立自然公園指定状況